

論 文 審 査 の 要 旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 学 術 ）	氏名	岸野 英美
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目			
ヒロミ・ゴトー作品における〈人間ならざるものたち〉——日系カナダ人女性作家に みるオルタナティヴ・アイデンティティの探求			
論文審査担当者			
主 査	准教授	城戸	光世
審査委員	教授	平手	友彦
審査委員	准教授	的場	いづみ
審査委員	教授	長田	浩彰
審査委員	教授	丸田	孝志
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、21世紀にカナダで活躍する日系カナダ人作家ヒロミ・ゴトー（Hiromi Goto, 1966-）の処女作から児童文学・ヤングアダルト（YA）作品までを取り上げ、そこに描かれる〈人間ならざるもの〉の表象に着目した作品分析を行うことで、ゴトーのエスニシティやセクシュアリティ、エコロジー等をめぐる問題意識が作品にどのように反映され、どのようなオルタナティヴ・アイデンティティの模索が読み取れるかを論じたものである。</p> <p>論文は、序章終章を含め全7章で構成されている。まず序章で作家の経歴や先行研究、T・モートンの〈人間ならざるもの〉の概念などが説明された後、第1章では、処女長編作品『コーラス・オブ・マッシュルーム』を取り上げ、日系人として現代カナダ社会でどうサバイバルするかというゴトーの意識が反映された作品として分析する。登場人物である主人公の祖母ナオエのキノコ栽培小屋での超自然的な若返りやその後の冒険などが、白人と非白人、男性と女性、同性愛と異性愛といった二項対立の解体にいかに関わりつき、そこに作者のエスニック・アイデンティティやセクシュアリティの問題意識がどう反映されているかが論じられた。第2章は、カナダ西部を舞台とした日系家族が登場する長編小説『カップ・チャイルド』を取り上げ、「クイア・エコロジー」の議論を援用しながら、異性愛主義や人間中心主義の価値観を覆し、人種・民族・性や自然の多様性理解の新たな可能性が示唆された作品として分析している。第3章では、短編小説集『ホープフル・モンスターズ』を取り上げ、各作品に登場する様々な怪異的存在や現象が、単に恐怖を表象するのではなく、家父長的な近代家族制度を攪乱し、オルタナティヴなジェンダーやセクシュアリティ意識を基盤とした新たな家族像模索の契機となっていると論じる。</p> <p>一方児童や若者向け文学を取り上げた第2部の第4章では、ゴトーの『可能性の水』を取り上げ、ファンタジー児童文学の古典『オズの素晴らしい魔法使い』と比較しながら、本作における従来の児童文学構造パターンの脱構築が考察される。とりわけゴトーのヤマンバの物語や日本の民話にも頻出する「タヌキ」の造形の換骨奪胎等に注目し、主人公の少女サユリの人種的アイデンティティや異界での冒険譚に、ゴトーの異文化受容のあり方への意識がどう反映されており、成長する主人公を通して読者である子どもたちにどのような肯定的アイデンティティ探求のメッセージが提示されているのかが分析されている。第5章では、YA作品である『ハーフ・ワールド』が取り上げられ、多様な文化や思想が織</p>			

り込まれた本作でも、いかに従来の勧善懲悪的ファンタジーの物語構造が覆され、現実や他者との関わりの中で自分なりのオルタナティブ・アイデンティティを構築していくことの重要性がどう提示されているかが分析されている。

本論文には、作品の細部や作者の意識変化についての分析や、理論援用の仕方について今後の課題として残るところもあるが、それぞれの作品論が文学批評として整合性を備えた論考であり、生存する本作家と知己のある申請者ならではの説得力のある論が提示されている。これまで作品論ばかりであったゴトーの現在までに出版された主要な作品全てを読み直した上で、ゴトーのオルタナティブ・アイデンティティの探求という点から総体的に考察した試みはこれまでになく、ゴトー作家論としてはじめてまとまりを持った論考を呈示することには大きな学術的意義があると考えられる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。